

生活文化学専攻

—学位授与・教育課程編成・入学者受入れの方針—

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

現代社会を取巻く諸問題に対して、生活文化という視点から課題を発見し、解決できる広い視野と専門的スキルの両者を兼ね備えることが課程修了の基準となります。

【身につけるべき力】

- ・高いレベルの専門的知識及びそれらを体系化する論理性を身につける。
- ・問題を発見し、その解決に向けた取り組みを修士論文としてまとめる能力を身につける。
- ・習得した分野横断的諸能力を、博士後期課程に進学して役立て、また社会の中で役立てる際に必要となるプレゼンテーション能力を身につける。

【学位授与の要件】

所定の在学期間在学し、授業科目の履修を通じて上記の資質・能力を身につけ、生活文化学専攻の定める修了要件を修め、修士学位請求論文の審査を受け、合格した者に修士（学術、生活環境学、家政学のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

まず履修系列が2大別されています。専門的能力の養成に主眼をおいた専修系、分野横断的関心に基づく広い視野の養成に主眼をおいた複合系です。両系列が定める所定の単位を以下の科目群から履修します。教養科目群、専門群、実践群、キャリア形成群、そして論文作成群です。本専攻では複数指導教員制を取っていますので、学生が主指導教員と相談しながら、自らの関心に基づいてこれら科目群から自分で構造化し、自律的に学習を進めるようになっています。

【教育の内容と方法】

履修計画は自分で設計します。複数指導教員制から分野横断的な関心が生まれることになり、学位名称も生活環境学、家政学、学術という分野横断的名称のいずれかになり、どの学位を目指すかも含めて、主指導教員と相談しながら履修します。また生活環境学部生活文化学科からの6年一貫教育プ

プログラムでは、学部生でも大学院の授業単位を一部取得することができ、質の高い修士論文作成まで継続的な研究が可能です。また、そのことにより短期留学など学外での学習を自分の履修計画に含める時間的余裕もできました。

【学習成果の評価】

成績評価基準は、試験、レポート等の課題提出など、何をどのくらいの割合で評価するかを科目ごとにあらかじめシラバスに明示されており、その方法で厳正に判定します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

男女共同参画、環境保護、高齢化、少子化など、現代の生活に関わる課題は極めて多様です。本専攻では社会科学と人文科学にまたがる教育カリキュラムを用意し、身近なところから問題を掘り起こす課題発見能力、諸問題の複雑な相互連関まで含めて明らかにする論理的分析力、研究を現実社会への提言に結びつけることのできる応用力をあわせ持った、真に社会に貢献できる人材の育成に努めます。

【求める学生像】

- ・家庭生活を中心とする人間的スケールから生活環境のあり方を考えるということに、強い興味と関心を持つ学生を求めています。
- ・社会科学、人文科学の分析視角を創造的に融合させることによって、身近な「世界」の中に、新たな認識・知識を発見していくことに対して意欲的な学生を、文系・理系を問わず歓迎します。

【入学者選抜の基本方針】

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

一般選抜

生活文化学の各分野から出題する「専門科目」の筆記試験、「英語」（TOEFL もしくは TOEIC）、および口述試験の成績、ならびに出身大学等の発行する成績証明書を総合して判定します。

社会人特別選抜

生活文化学の各分野から出題する「専門科目」の筆記試験、および口述試験の成績、出身大学等の発行する成績証明書、ならびに任意で提出された研究論文等を総合して判定します。

外国人留学生特別選抜

生活文化学の各分野から出題する「専門科目」の筆記試験、「英語」（TOEFL もしくは TOEIC）、

および口述試験の成績、出身大学等の発行する成績証明書、ならびに任意で提出された日本語能力確認書類を総合して判定します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

6年一貫教育プログラムにおける成績を用いた書類審査により判定します。